



**会員委員会定期便**  
 親睦旅行を計画しています。ふるってご参加ください。(しまった、締め切りは12月17日でした。でも空きがあれば)  
 平成20年1月27日 かんぼの宿 潮来、現地集合17:00。1月28日10:00解散、¥15,000。前日ゴルフあり。連絡先043-277-5005 (明智・香藤・鈴木)

(一面からの続き)

総会に引続き、午後3時より同会場にて今年3月に千葉大学を退官された森田耕次千葉大学工学部名誉教授をお迎えし、「最近の建築溶接の話題」というテーマで森田先生の研究成果を振り返っていただき、参加者にわかり易い内容でご講演をいただきました。85名を超える大勢の参加を頂きました。講演最後の質疑応答では、確認審査に関する建築基準法の改正に伴う「適合性判定システム」に関しての先生のご意見をいただいたり、溶接部の裏はつりが一般的に利用されないのはなぜか、エネルギー法に基づく梁、柱降伏メカニズムの推定に基づく建物性状把握に際し、溶接部、及びその周辺の物性、挙動の推定、把握は重要であること、ダイアフラムが梁フランジの2サイズアップという運用がされていますが先生はどうお考えでしょうか、などの質問、意見が投げかけられ、活発な意見交換がされました。先生のお人柄が醸し出す暖かい雰囲気での講演会となりました。

森田先生には、今後も千葉県耐震判定協議会にて、鉄骨系の構造審査委員長としてご活躍いただくと共に、JSCA・千葉の学術委員として私たちJSCA会員との協働を更に推し進めるべくご協力を賜りたいと存じます。

森田先生の特別講演会の後、午後5時より懇親会が開催され、千葉県及び千葉市を含む行政の方々、関連団体の委員長、代表の方々、協力会員の方々、千葉県鉄骨工業会の方々、千葉職業能力短期大学の方々、千葉県建設技術センターの方々、千葉県耐震判定協議会の方々、JSCA本部から専務理事、日刊建設新聞、NHK千葉の報道の方々など多くの参加をいただきました。

JSCA・千葉の齋藤代表より、姉齒事件以降建築基準法の見直しが急がれ、今年の6月20日以降

大きく建築確認審査が変わるに際し、構造設計者の作業内容が増え、作業時間、業務量が増えることから、設計料についても正当な評価を頂かなければならない状況にあること。更に適合性審査機関へのJSCA・千葉の協力により、さらに忙しい時間を過ごさざるを得ない状況にあること。もう少し法律ではなく、構造設計者、建築構造士の行為への自主性と信頼が得られるべきであり、そのようになるように会員の研鑽に努力することなどが挨拶の話題として述べられました。

来賓のご挨拶においては、千葉県建築士会の会長に前日就任されました青柳英俊様が、本席でのご挨拶が千葉県建築士会会長としての対外的業務の最初であるとお話を頂き、強く印象に残りました。森田先生も講演の後ご出席を頂き、会員をはじめ、出席の方々との楽しい意見交換の時間を作っていただきました。約2時間の懇親会は出席の皆様の楽しい意見交換の場としてあっという間にお開きとなってしまいました。お忙しい中、貴重なお時間を割いてご出席いただきましたこと、JSCA・千葉会員一同心より御礼申し上げます。



懇親会にて

適判業務が始まる

2007年6月20日建築基準法の改正(?)により、日々大変な生活を送られていることと思います。

さて、千葉県内の構造計算適合性判定は、(財)千葉県建設技術センターで行われています。このオフィスの窓から、千葉港の大型貨物船がタグボートに曳かれているのが見えます。

8月になってやっと物件が適判に回ってきたようです。この原稿を書いている10月末には多くの物件が適判にきています。判定業務の流れは、判定員が見る前に、判定補助員の方がデーターを流してデーターのチェックと、計算書のチェックをしてくれています。判定員は二人一組で主査と副主査になって、三角スケールと大きな虫眼鏡も使いながら、計算書・図面をみていき 時に電卓をたたきます。

無言でチェックをするチーム・議論沸騰でにぎやかなチーム いろいろな作業風景があります。午後、規模の大きな物件では、設計者からのヒアリングを行います。夕方、チェックシートの記入と追加説明を求める内容のまとめを行い、やっと一日が終わります。後日、主査には、追加説明書が届き、資料を読みます。それで解決すれば、報告書にサインをして、終了です。解決しなければ.....

窓から見える千葉港は、朝の海のきらめきから夜の海の深さと遠く船の光に変わっています。

私の場合、判定では、構造図の確認と構造計画の部分・電算入力条件と手計算で行った条件のそれぞれの繋ぎ目(境界条件?)の条件に、注目します。これが一貫していないと大きな影響がでると思うからです。適判業務してみると、抵抗感があつた構造計算概要書が見る側からすると便利な物というかわかりやすいものだと思います。(自分でも少しプラス思考で概要書を作成する気になりました。)人の作製した計算書・図面を見ることで、参考になる面もあります。

千葉の適正化判定の現在のテーマは、判定の基準を一定にすること、判定員と設計者の技術力の向上を図ることです。そのため、判定業務の開始に向けて、6月27日、7月12日の二日間講習会・勉強会を開きました。

判定員・設計者の隔てなく、共通の認識を育てることが、良い設計・技術力の向上・作業効率の向上に繋がると考えています。今後も、勉強会を開いて対応する事になっています。(斎藤 利彦)

11月6日耐震補強工事見学会後記

今回の耐震補強見学会は、本年度における校舎棟と屋内運動場のそれぞれの耐震化の目玉工事なんだろうと思い、楽しみにしながら行って来ました。最初は、市原さんが担当された千城台高等学校の普通教室棟です。鉄骨造4階建て、スパン方向はモーメント柱付き架構、桁行き方向はラーメン構造の珍しいフレーム構成の校舎です。市原さんの説明で始まりましたが資料の図面を見て驚きの声が上がります。何と変わったブラケットと言うか方杖のようなものが図で示されています。説明で、これはパネル部分の強度をほどよく補う目的で設計し、LY225:極低降伏点鋼板を介する事でダンパーの様な減衰効果を考えたとの趣旨を教えてくださいました。皆さんもさらに興味深々と言う感じになり現場に入っていました。そしてブラケットの現物を見て更に皆さんの興奮が大きくなって行きますそして、実際の取り付け状況を見ながら現場職長の現場サイドの工夫の話やモーメント柱のプレートサイズの話など大変貴重な意見を直に聞く事が出来て大変勉強になりました。



次は、苫谷さんが担当された八街高等学校の屋内運動場です。主体構造が鉄筋コンクリート造、屋根部分鉄骨造の平屋建ての建物です。まず外観から迫力のある頂部に取り付けた鉢巻上の水平鉄骨トラスに圧倒されてしまいました。苫谷さんからの説明で、このトラスは建物外周全体に配置する事で頂部レベルにタガをはめた様な効果を発揮する物である事と、このような水平鉄骨トラスは全国的にも本格的なものは初めてであるとの説明が有りました。早速、足場を上って水平鉄骨トラスの施工中の部分を見学しましたがやはり迫力満点でした。設計は相当な苦勞をされたと思います。又、建て方やRC部分のアンカー等で施工側もよく頑張っているなど強く感じるところがありました。そして、視聴覚室での質疑も活発に行なわれ無事終了となりました。今回の耐震補強見学会は大変有意義で今後の耐震補強設計に大いに役立つ事と思います。最後に協力して頂いた県施設改修課並びに学校関係者、工事関係者に深く感謝申し上げます。(加藤 義道)



ホームページ委員会からの連絡

JSCA千葉のHPが、JSCA本部からリンク出来るようになりましたので是非皆さん確認してください。YAHOOへの申し込みはこれから実施しますのでもう暫くお待ち下さい。以上です。よろしくお願いいたします。(加藤 義道)